

授業風景 classes



▲赤ちゃんに触れる



▲ゼミ形式授業の一コマ



▲園庭での遊び体験



▲保育者からの学び

子どもと出会い、子どもに学ぶ 豊かで確かな学びがそこにある

お茶の水女子大学には、日本で最も歴史の長い附属幼稚園（1876年-）、国立大学法人初の附属学校部所属の保育所いずみナーサリー（2005年-）、文京区とともに子育て支援の推進と幼児教育の質の向上をめざして開設した文京区立お茶の水女子大学こども園（2016年-）という、3つの子どもの居場所があります。

どの場も子どもを中心におき穏やかに豊かな保育を展開しています。インターンシップや実習、授業の一環などで大学生が園を訪れることで、双方にとって豊かな体験がもたらされています。小さい子どもにしか見えないもの、聞こえないものを感じる。大事な学びの時間です。

子ども学コースで開講する「子ども学フィールドワーク」や「子ども学インターンシップ」では、3園をはじめ、子どもたちが生活する場を訪問し、実際の子どもの姿に触れたり関わったりして、子どもに関する理論・知識や、子どもに対して抱いているイメージを捉えなおす機会をもちます。現場で子どもと関わる保育者などの専門家とも話し合い、保育・教育について考えます。

子ども学コース概要 course outline

所属：文教育学部 人間社会科学科

設置：2018年4月

修業年限：4年

取得学位：学士（人文科学）

取得できる教員免許状：幼稚園教諭一種・小学校教諭一種・中学校教諭一種（社会）・高等学校教諭一種（公民）

取得できる資格：学芸員（博物館）・社会調査士

※教員免許状・資格の取得には、所定の科目の履修が必要です。

入学科：282,000円（2018年3月現在）

授業料：半期 267,900円（年間535,800円）（2018年3月現在）

※入学時および在学中に授業料が改定された場合は、改定時から新しい授業料が適用されます。

ホームページ：<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/child/>



お茶大子ども学HP

お茶の水女子大学アクセスマップ access map



“Kommt, laßt uns unsern Kindern leben !”
(Friedrich Fröbel 1782-1852)

【お問い合わせ】 contact us

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

国立大学法人お茶の水女子大学

* 子ども学コースについて：child-studies@cc.ocha.ac.jp

* 入試について：〈入試課〉nyushi@cc.ocha.ac.jp



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

2018.03.30



2018年度設置

お茶の水女子大学
文教育学部 人間社会科学科
子ども学コース

Welcome to

the Faculty of Letters and Education

Department of Human and Social Sciences

Child Studies

「子ども」という境界領域から、
理論・実践・対話を通して、
人間・社会・文化の
生成過程および構造を探究する

子どもが育つ社会環境を良くしたい…

子ども関連の企業で仕事をしたい…

将来、教育・保育行政に携わりたい…

目標は、教師・保育者になること…

子育てや保育の問題を研究したい…

ぜひ、お茶の水女子大学の子ども学へ！



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

目的 purpose

「子どもから」人間・社会・文化の生成過程および構造を探究する

私たちの世界は多様な人々から構成されています。子どももまた世界の多様性を構成する要素の一つだと考えることができます。子どもたちはこの世界に登場し、様々な経験をして成長していきます。世界は新しく参入してきた子どもを育て・支え・教育するシステムを工夫して作り出してきましたが、私たちは今、次々に現れる課題に直面しています。

子ども学コースでは、子どもをとりまく多様な課題について考えます。ただ、子どもの課題に取り組もうとするとき、ともすれば目の前の課題に振り回されてしまうことはないでしょうか？目の前の問題に振り回されることなく子どもの課題に取り組むためには、少々遠回りに思われるかもしれませんが、幅広い知識を習得し多様な経験を重ねていくことが重要だと考えています。本コースでは、子どもを取り巻く課題を考えながら、その背後にある社会や文化の構造について、そして人間とは何かについて探求することを目的としています。

特徴 characteristics

理論・実践・対話による多様な学び

子ども学プログラムでは、専門の基礎として、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を多様な専門領域の観点から多角的に学びます。誰もが経てきた「子ども」時代を相対化して捉えることにより、「子ども」を通して人間・社会・文化へと視野を広げていきます。また、同じキャンパス内に位置するナーサリー・こども園・幼稚園など子どもたちが生活する場に臨み、フィールドワークやインターンシップを通して「子ども」や子どもを取り巻く環境について実践的に学びます。

これらの学修で大切にしたいのは「対話」です。学生／教員／子ども／保育者／自己など、それぞれの間でなされる対話の積み重ねは、学びの深化をもたらすはずで、2年次後期からの演習でも、学問的対話を大切にしながら自身の問題関心を深め、4年間の集大成としての卒業論文につなげていきます。本プログラムでは幼稚園教職課程の科目も展開しています。

教員 faculty members

氏名	研究分野	主な担当科目
	メッセージ	
教授 宮里 暁美 MIYASATO Akemi	保育学 子育て支援論	保育内容総論（子どもと遊び）(1)(2) 子ども学演習I・II 子ども学インターンシップ 子どもと言葉 ほか
	子どもの世界を探究する 本学には附属幼稚園・ナーサリー・こども園があり、実際に子どもと出会う体験を通して学ぶことができます。心や発達の理解、家庭支援、絵本・玩具等「子ども」に関することを総合的に学びます。	
教授 浜口 順子 HAMAGUCHI Junko	幼児教育学 保育人間学	幼児教育方法学概論 幼児教育課程概論 幼児教育学演習I・II 子ども学フィールドワーク ほか
	子育て・保育の問題を大人/子どもの関係性から 発達、安全、愛情、学力、しつけなど、常識的に肯定されがちな、子育てにまつわる概念や問題を、子どもの成長過程や大人の価値観を軸に捉えなおし考えていきます。	
教授 小玉 亮子 KODAMA Ryoko	教育史 子ども社会学	子ども社会学概論(1)(2) 子ども社会学演習I・II 家庭教育論演習I・II 女性史・男性史とジェンダー ほか
	社会の中の子ども・文化の中の子どもについて考える 子どもたちは、グローバル化・情報化の進む社会のフロントランナーとして生きています。だからこそ、歴史的・空間的な比較という方法を駆使してマクロな視点から子どもたちの今を考えてみたいと思います。	
助教 松島 のり子 MATSUSHIMA Noriko	幼児教育学 保育制度	幼児教育制度概論(1)(2) 幼児教育制度演習I・II 子ども発達環境論演習I・II 保育内容指導法（環境） ほか
	学問をとらえて子どものしあわせを実現する すべての子どもがしあわせであってほしい。保育制度・政策史の研究・教育に取り組むうえで根底にある願いです。この願いを実現する力を、学問の世界で培っていきませんか。	

参考：子ども学プログラム（主+強化）の概要（2019年度～） curriculum

	学科共通科目	概論・特殊講義系科目	演習・実習系科目	隣接領域・特設科目	幼稚園教職課程の科目
1年	子ども学総論				
	社会学総論	幼児教育方法学概論		社会学コース基礎科目	
	人間と発達	幼児教育課程概論		教育科学コース基礎科目	幼児理解と教育相談
	人間科学論	子ども社会学概論			保育内容指導法 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)
2年	教職概論	幼児教育制度概論	子ども学フィールドワーク	学校インターンシップ	
		保育内容総論（子どもと遊び）	子ども学インターンシップ	教育科学コース演習科目	保育5領域に関する専門科目
		幼児教育学原論	幼児教育学演習		教職音楽実技
		子ども発達論	保育学演習	児童福祉論	
3年		人間関係論	子ども社会学演習	発達臨床心理学	事前・事後指導
		子ども学特殊講義	家庭教育論演習	臨床心理学概論	
			幼児教育制度演習		
			子ども発達環境論演習	乳幼児教育論	教育実習
4年			子ども学演習	子ども学ゼミ	
			子ども学研究指導	乳幼児の世界	
			卒業論文	子ども学研究法	教職実践演習

本学では、領域横断的な学びと専門性の高い学びを、学生一人一人が主体的に進めることができるように「複数プログラム選択履修制度」を採用しています。子ども学プログラムは、子ども学の基礎科目（総論・概論科目）、発展科目（特殊講義系科目）、演習科目、実習系科目、研究指導・卒業論文、隣接領域の科目および幼稚園教職課程の科目から構成されています。

小学校・中学校・高等学校の教員免許状は、人間社会科学科各プログラム等で開講される所定の教職科目の履修により取得できます。